



街に刻まれし、

奥深き技と職人たち



Shinjuku Wazano Meisho

技の名匠





新宿ものづくりマイスター

技の名匠®



新宿区は東京 23 区のほぼ中央に位置し、約 35 万人の人々が住むまちです。

新宿駅西口の高層ビル街や東口の歌舞伎町など繁華街のイメージだけでなく

緑濃い住宅街や江戸情緒を感じさせる路地もまた、その表情の一つです。

新宿区の商工業はそのような風景のなかで発展してきました。

さまざまな分野から有能な技術者や職人が生まれています。

そこで、新宿区では地場産業を含めたものづくり産業の振興を目的に

「新宿ものづくりマイスター認定制度」を実施しています。

区内でものづくり産業の同一業種に 10 年以上従事し、優れた技術・技能を持ち

後進の指導を行っている方を「技の名匠」として認定する制度です。

ロゴマークは「新宿」の「新」と、新しい未来に向かう「新」をイメージしています。



この冊子は「新宿ものづくりマイスター 技の名匠」の方々を

広く皆さまに知っていただくことを目的に作成しました。



令和2年3月 新宿区



目次

新宿ものづくりマイスター「技の名匠」	2	新宿に育つ 音と響	
技の名匠 MAP	4～5	管楽器製造	石森 信二 39
新宿と歩む 染めの雅		管楽器修理 (フルート)	伊藤 史安 40
東京染小紋	富田 篤 7	管楽器修理 (オーボエ・バスーン)	萩森 弥郁夫 41
東京染小紋	砂川 裕孝 8	管楽器修理 (管楽器全般)	高橋 一朗 42
東京染小紋	金田 朝政 9	管楽器修理 (管楽器全般)	多湖 朋 43
東京手描友禅	飯島 武文 10	琴・三味線修理	高橋 俊隆 44
東京手描友禅	熊崎 和人 11	弦楽器製造	山本 隆志 45
東京手描友禅	真淵 貴昭 12	技をつなげる ～新宿のものづくりを担う	
東京手描友禅	大澤 学 13	次世代たちにインタビュー PART 1 ～	46～47
東京手描友禅	西澤 幸雄 14	新宿で作る 眺える 設える 捨える	
手描友禅	工藤 博 15	つまみかんざし製造	石田 毅司 49
手描友禅 (金彩)	遠藤 興喜 16	紳士服製造	松田 義明 50
手描染	平林 隼人 17	洋裁	佐藤 順子 51
染の歴史と技法	18～19	足袋製造	大橋 信彦 52
引染	中村 博幸 20	革製品製造	鮎澤 剛 53
引染	中村 隆敏 21	婦人靴製造	捧 恭子 54
無地染	福室 隆一 22	帽子製造	故市 瀬 廣夫 55
浸染	宇佐美 隆三 23	義肢・装具製造	故藤塚 勝栄 56
湯のし	吉澤 敏 24	技にふれる	
日本刺繍	石崎 直治 25	～新宿ミニ博物館へ行ってみよう!～	57
紋章上絵・染色補正	北川 幹雄 26	畳製造	水野 功一 58
染色補正	松田 光二 27	畳製造	常川 直喜 59
技にふれる ～職人さんのスゴ技を見る～	28～29	桐箆筒製造	松本 義明 60
新宿から届ける 刷る 綴じる		内装木質・アルミ建材等補修	田島 靖教 61
活版印刷	佐々木 精一 31	表具	並木 良夫 62
活版印刷	高岡 昌生 32	金属原型彫刻	坂本 国雄 63
製本	渡邊 博之 33	印章彫刻	岡本 尚也 64
製本	井上 正 34	和竿製造	竹内 正治 65
製本	青木 勉 35	技をつなげる ～新宿のものづくりを担う	
シール印刷	兼平 欣治 36	次世代たちにインタビュー PART 2 ～	66～67
技にふれる ～地場産業を体験しよう!～	37	和生菓子製造	井上 豪 68
		和生菓子製造	相田 茂 69
		和食調理	藤井 正 70
		技の名匠 認定者一覧	71

技の名匠MAP



- ① 福室 隆一 (P.22)
- ② 真淵 貴昭 (P.12)
- ③ 藤塚 勝栄 (P.56)
- ④ 松田 光二 (P.27)
- ⑤ 宇佐美 隆三 (P.23)
- ⑥ 遠藤 興喜 (P.16)
- ⑦ 吉澤 敏 (P.24)
- ⑧ 大澤 学 (P.13)
- ⑨ 金田 朝政 (P.9)
- ⑩ 中村 博幸 (P.20)
- ⑩ 中村 隆敏 (P.21)
- ⑪ 熊崎 和人 (P.11)
- ⑫ 石田 毅司 (P.49)
- ⑬ 高橋 俊隆 (P.44)
- ⑭ 富田 篤 (P.7)
- ⑮ 北川 幹雄 (P.26)

- ⑬ 平林 隼人 (P.17)
- ⑭ 佐々木 精一 (P.31)
- ⑮ 井上 正 (P.34)
- ⑯ 坂本 国雄 (P.63)
- ⑰ 工藤 博 (P.15)
- ⑱ 渡邊 博之 (P.33)
- ⑲ 高岡 昌生 (P.32)
- ⑳ 青木 勉 (P.35)

- ⑳ 鮎澤 剛 (P.53)
- ㉑ 井上 豪 (P.68)
- ㉒ 相田 茂 (P.69)
- ㉓ 捧 恭子 (P.54)
- ㉔ 田島 靖教 (P.61)
- ㉕ 水野 功一 (P.58)
- ㉖ 大橋 信彦 (P.52)
- ㉗ 松本 義明 (P.60)
- ㉘ 岡本 尚也 (P.64)
- ㉙ 常川 直喜 (P.59)
- ㉚ 佐藤 順子 (P.51)
- ㉛ 松田 義明 (P.50)
- ㉜ 飯島 武文 (P.10)
- ㉝ 高橋 一朗 (P.42)
- ㉞ 多湖 朋 (P.43)
- ㉟ 石森 信二 (P.39)
- ㊱ 萩森 弥郁夫 (P.41)
- ㊲ 伊藤 史安 (P.40)

- A 染の里 二葉苑 (P.57)
- B つまみかんざし博物館 (P.57)
- C 東京染ものがたり博物館 (P.57)

この地図には本文に区内住所の記載がある方のみ掲載しています。

新宿と歩む

染めの雅

新宿区の神田川流域には、京都・金沢と並び

伝統的な染色業が脈々と受け継がれてきました。

大正中期以降、神田や浅草の染色業者が良質な水を求めて移転してきたもので

代表的な染色技法である友禅や小紋のほか

きもの染色産業に欠かせない多種多様な技術が集積しました。

今も、それぞれの技術を得意とする職人によって分業されています。



東京染小紋



とみた あつし
富田 篤

見学可

体験可

(株) 富田染工芸

MAP14 新宿区西早稲田 3-6-14

TEL: 03-3987-0701



昭和 23 年生まれ。明治初期に京都から江戸東京へ移り、約 150 年続いている富田染工芸の 5 代目。

型紙を使って染める「型染」のなかでも細かくて繊細な柄を「小紋」というが、上品な伝統柄を単色で染めた「江戸小紋」と、複数の型紙を使って自由なデザインで染め上げる「東京しゃれ小紋」の 2 つを総称する「東京染小紋」に従事する。

大学卒業後に 7 年間勤めたアパレルメーカーでの経験を活かし、着物だけにこだわらず、Tシャツ、ハンカチ、ネクタイなど小物も江戸小紋で染めるなど、若年層や海外の方々にも向けた積極的な取り組みを行っている。

敷地内にて新宿区指定の「東京染ものがたり博物館」を運営。昔ながらの土間の工房では染の体験講座を行い、染色業の伝承にも努めている。

平成 24 年にはデザイナー南出氏とブランド「SARAKICHI」をリリース。令和元年にはパリにも出店。伝統工芸士、東京都伝統工芸士、東京マイスター（※）。新宿ものづくりマイスター第 1 号認定者。

[新宿ものづくりマイスター平成 20 年度認定]



持ち込みの T シャツも染められます (有料)



表に「大小あられ」を、裏に「乱菊」を染めたストール



素敵な工房で染めの体験ができます

東京染小紋



すなかわ ひろたか
砂川 裕孝

(株) 松綱染工所

練馬区高松 6-29-7

TEL: 03-3925-6070 ※現在は練馬区に移転されています

昭和 41 年生まれ。明治 42 年創業の松綱染工所の 5 代目。江戸小紋のなかでも特に難しいとされている「毛万筋(けまんすじ)」と呼ばれる極細の縞模様など、いわゆる「極型(ごくがた)」を得意とし、その柄数は 5000 種以上にも及ぶ。

繊細な模様ゆえにちょっとした生地シボや節も柄の見え方に影響を及ぼすため、生地は滋賀県長浜産の河藤ちりめんや山形県庄内産の繭から織られた絹地など厳選している。紬や大島、他の変り無地、紋生地などにも対応し、染料を多種調合することで深い色合いを出してきた。その一方で、伝統的な小紋柄を使った洋装品の製品化にも果敢なチャレンジを行っている。遠くから見ると無地にしか見えないくらいに繊細な小紋で仕立てたワイシャツやジャケットは、モダンかつ優美。着物を伝える新しい形として人気がある。

全国伝統的工芸品公募展等での入選実績を持つ。新宿区染色協議会では、会の運営に積極的にあたっている。東京都伝統工芸士。

[新宿ものづくりマイスター平成 24 年度認定]



極型三役小紋草花取りバック無地



パステルカラーでも染める伝統的な紋様



「粋」を洋装に取り入れる

東京染小紋



かねだ ともまさ
金田 朝政

(有) 金田染工場

MAP 9 新宿区下落合 1-14-4

TEL: 03-3951-5703

見学可



昭和 45 年生まれ。祖父が開業した染色加工業を 26 歳で父・昇より引き継ぎ、その後父の死去に伴い「2 代目 金田昇」を襲名。

精巧に彫られた伊勢型紙の模様を一分の狂いもなく布に染め上げるには高度な技術が求められる。仕上げの段階では色ムラや型の継ぎ目を細い筆で補正していく。小紋でもっとも高度な技術と言われているこの「地直し」と呼ばれる技術にも卓越している。絹だけでなく麻素材の小千谷縮(おぢやぢぢみ)へ染める技術も有し、これまで全国小紋友禅染色競技会、日本伝統工芸士作品展等において多数の受賞歴を持つ。

伝統的な型染めだけにとどまらず「蒔き糊」「糊流し」など独自の技法を取り入れ新しい表現への模索も始めている。

自社工場では弟子の指導・育成にあたり、東京都染色協同組合、新宿区染色協議会でも若手会員に向けた染めの継承に取り組んでいる。伝統工芸士、東京都伝統工芸士、東京マイスター。

[新宿ものづくりマイスター令和元年度認定]



柄を組み合わせられるようにデザインした帯



複数の型紙で染め上げる

東京手描友禅



い い じ ま た け ふ み
飯島 武文

見学可

体験可

樺延工房

MAP36 新宿区戸山 2-33-1334

TEL : 03-3203-8755

昭和 17 年生まれ。16 歳で岡川紫延氏に師事し、26 歳で独立。

細い糸のような糊で図の輪郭を描き、繊細な図柄に色を挿していく糸目友禅やろうけつ染めなどの彩色を得意とする。古典的な文様にモダンな色調でぼかしを加え、江戸風な「わびさび」を表現した作品も多い。

また、花鳥風月、十二支、四季折々の行事、東京の風景など、絵柄の引き出しは実に奥が深い。大相撲力士が着る「場所入り」着物を手がけた際には、力士の四股名や出身地をイメージして製作した。

そんな柔軟な製作活動は多くの受賞歴にもつながっている。

現代における染めの普及とは、まず一人でも多くの人に友禅というものを見て知ってもらふことだと言う。百貨店やイベントでの実演や体験教室では下絵、糊置き、色挿しなど、その工程を丁寧に指導している。伝統工芸士。平成 27 年「瑞宝単光章」受章。

[新宿ものづくりマイスター平成 21 年度認定]



軽やかなうさぎの絵が浮かび上がる



雪の輪にカタクリ、桜、橘



楽器を描いたのれん

東京手描友禅



く ま ざ き か ず と
熊崎 和人

見学可

体験可

熊崎工房

MAP11 新宿区高田馬場 4-27-15-402

TEL : 03-3365-6610

昭和 21 年生まれ。16 歳で服部秋巳氏に師事。28 歳で独立し、熊崎工房を設立。

豊かな描写力とそれを再現できる精緻な技術力。そして「他の人がやらないことへのチャレンジ」が、作品の魅力。

特徴的な作品「江戸名所図会」は、海辺に葦、松、民家、船、人を配した江戸の日常風景。絵柄は江戸の風景を鳥瞰図で描いた「江戸名所図会」の古書がヒントとなっている。上野や日本橋、隅田川など、当時の風景を身にまとうのもよいのではないかと思いついたと言う。60 以上の色を使い、江戸のまちが丁寧に描かれている。

平成に入ってから歌手のステージ衣装も手がけてきた。舞台映えを考え、大胆な柄や色使いにもチャレンジしている。多種多様な作風が評価され、東京都染芸展でもたびたび受賞している。

工房では手描友禅塾を開講。後継者の指導・育成にあたり、これまでも多数の弟子を独立させている。伝統工芸士。

[新宿ものづくりマイスター平成 22 年度認定]



江戸名所図会を再現



ユリは地色に溶け込む上品な色づかい



ステージ衣装のイメージ。艶やかな色が並ぶ

東京手描友禅



まぶち たかあき
真淵 貴昭

見学可

体験可

工房 貴美

MAP 2 新宿区中井 2-21-26

TEL : 03-3953-7675

昭和 14 年生まれ。幼少時代より絵が好きで将来は絵の勉強をしたいと考えていた 18 歳の頃、布に絵を描く仕事なら東京にあると友人から聞き、昼間その仕事をすれば夜にはデッサンの勉強ができるだろうと上京。その仕事が東京手描友禅であった。小沢賢雄氏の下で修行を重ねるうち、その奥深い世界に魅了され、26 歳で独立し「工房 貴美」を設立。

作品には故郷の信州がたくさん表れている。四季折々の豊かな自然を謳歌するデザインが特徴的。30 本以上の筆を使い、アンズやリンゴ、レンギョウ等の花々を流れるように配置したり、クローズアップで大胆に見せたり、多彩な描写力でこれまでに多くの賞を手にしてきた。

目指すのは「着て美しく、眺めて美しく、見られて誇らしい着姿」。美の心を引き継ぎ伝えることを目標に、製作を続けている。伝統工芸士。

[新宿ものづくりマイスター平成 23 年度認定]



レンギョウの訪問着



「日本伝統工芸展」出展の「躑躅（つじ）華紋」

東京手描友禅



おおさわ まなぶ
大澤 学

体験可

東京手描友禅工房 協美

MAP 8 新宿区下落合 4-6-17

TEL : 03-3954-3331



昭和 43 年生まれ。家業が東京手描友禅の工場を営んでいたことから、染色を継承するに十分な環境には在ったが、本格的に志したのは高校生の時。たまたま家業の手伝いをしたことがきっかけだった。19 歳より東京手描友禅伝統工芸士の倉谷憲明氏のもとで修行をし、22 歳から父・大澤敏氏の工房「協美」にて研鑽を積む。

糸目友禅やろうけつ染めを得意とする。「手描友禅」の文字通り、一品一品、手で描くため同じ絵柄を描いてもまったく同じには仕上がらないし思い通りにならないことも。繊細な技術が求められるがそこが「ものづくりの魅力」だと言う。

白生地の生産地の機屋（はたや）と協力をして新しい感覚の生地に友禅染を施す取り組みも始めた。

工房では着物や帯の製作のみならず、「友禅教室・友禅体験教室」や、着付け講師による「着付け教室」も開催。染めのイベントへも積極的に協力し、伝統文化を後世に伝える活動にも注力している。伝統工芸士。

[新宿ものづくりマイスター平成 25 年度認定]



更紗模様を描いた名古屋帯



名古屋帯「葡萄模様」



訪問着「北山杉」

東京手描友禅



にしざわ ゆきお
西澤 幸雄

※現在は引退されています

昭和5年生まれ。東京手描友禅は「京友禅」「加賀友禅」と並ぶ日本の三大友禅のひとつ。江戸で花開いた町人文化が色濃く反映された伝統工芸品である。単彩の中に繊細な模様を施し、きらびやかではないが気品がある。

構想から仕上げまで、作者が一貫して携わることが東京手描友禅の特徴。自ら地色を染め、全体イメージを考慮しながら模様を描く独自の技法で、多くの作品を製作してきた。反物に色を挿す友禅では、絵画のように画面全体を見渡せるわけではないが、仕立てられた着物には1枚の絵のような美しさがある。また、葉をあえて紫で表現するなど、従来のイメージにとらわれない色使いにも卓越した作風が感じられる。

生地に対する造詣も深く、帯には手触りが心地よい「鬼しぼ縮緬（ちりめん）」も用いる。生地に凹凸がある縮緬は筆が滑りにくいが、優れた技術があるからこそ繊細な模様を描くことができる。伝統工芸士。

[新宿ものづくりマイスター平成20年度認定]



裾にまで散りばめた桜が豪華



手描友禅



くどう ひろし
工藤 博

見学可

染色工房 藤彩

MAP20 新宿区中里町 12

TEL: 03-3268-5956

昭和24生まれ。染色を業としていた父から友禅を学び、約50年間、手描友禅に携わる。

季節の花や古典柄を現代風にアレンジした柄行が特徴。好みの色や柄で眺めることができる友禅は、製作過程でどんなに苦労しても、完成して喜んでもらった時の気持ちに勝るものはないと言う。

着物は染め替えたり、金線や箔などでイメージを変える加工を施すことができるため、長く楽しんで着てもらえるように「眺え」以外の相談にも乗っている。

最近は着物だけでなく、シャツへ絵付けをしたり、スカーフ、ハンカチなど小物の製作も行っている。ピアスや指輪などのアクセサリケースとしても使えるような500円玉大の小物入れは、新しい「和の楽しみ方」を視野に製作したオリジナル商品。表・裏に片面ずつ違う絵を描いたり、名前を入れることもできる。

染色体験イベントなども積極的に参加し、着物と染色の普及に努めている。

[新宿ものづくりマイスター平成24年度認定]



桜を多色で描く



下絵と仕上げ



アクセサリも入るマカロン型小物入れ

手描友禅 (金彩)



えんどう こうき
遠藤 興喜

見学可

体験可

藤工芸社

MAP 6 新宿区上落合 1-7-12

TEL : 03-3362-8874

昭和 14 年生まれ。両親ともに染色にかかわっていたことから幼少より染めの世界に触れる。中学卒業とともに神田の悉皆屋（染物や洗い張りなどの注文を専門店に取り次ぐことを職業とした者）にて染色家・鈴木三郎氏に師事。24 歳で独立。その後日本画家・佐藤紫雲氏より画法を学び友禅への造詣を深め、金彩加工に携わるようになる。

金彩加工は反物の最終的かつ重要な加飾工程でもあるため、地色や友禅などの前段階とのバランスが重要になる。金彩の材料である薄い箔は風が天敵のため、真夏でもクーラーや扇風機なしの過酷な環境での作業となる。

「平押箔（押箔）」「筒描き」「摺箔」「砂子」「形箔」など、技法に合わせて糊も使い分ける。箔をそのまま貼る、箔を粉状にして糊と混ぜて絞り出す、粉状にした箔を振りかけるなど、図柄に加える技術も異なる。「形箔」では自らがデザインして彫った型紙も使って箔を押す。

[新宿ものづくりマイスター平成 29 年度認定]

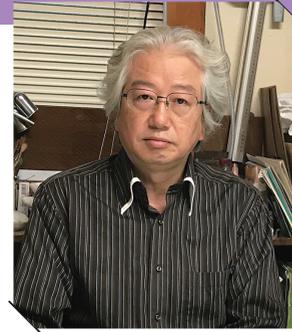


筒描きで金彩を施す



模様を浮き立たせる幽玄の技法「摺箔」

手描染



ひらばやし はやと
平林 隼人

見学可

体験可

染芸工房 隼人

MAP16 新宿区弁天町 4

TEL : 03-3202-0653

昭和 27 年生まれ。工業化学を専攻し、調香に関わる仕事に就いていたが、19 歳のときに転機を迎える。染色に興味を持ち、染色家・袖山栄太郎氏に師事。34 歳で独立し、現在の工房を構える。

糸目友禅、ろうけつ染め、金彩蒔絵加工など複数の技法を習得。着物だけでなく襖や屏風、歌舞伎衣装の制作や修復も手がける。複数の技法を組み合わせた独創的な作風も特筆すべき点。

なかでもろうけつ染めと金彩に卓越した技能を持つ。染料にもこだわり、絹地の風合いや生地目を活かす工夫を重ねてきた。金彩では巧みなカッター使いで自ら切り出した型紙を使うなど、満足する仕上がりのために積極的な努力を惜しまない。作品には常に伝統美と独創性の融合が見られる。

新宿区染色協議会では若手職人への技術指導を行い、工房開放のイベントに参加するなど、染色業界・地域活性化の取組みにも力を尽くす。

[新宿ものづくりマイスター平成 30 年度認定]



グラデーションが大胆なろうけつ染め作品



糸目友禅・ろうけつ染め・金彩の粋を極めた作品

染の歴史と技法

新宿の染めを知る

17世紀、京都の絵師が創始したと伝えられる友禅染め。染師や絵師が江戸に移り住んだことから独自の発展を遂げたと言われる。

分業制である他の友禅染めと違い、東京手描友禅は一人の職人が全工程を担う。手描きで下絵から色挿しを行い、染め付けまで、各工程に表れる職人の個性は顕著だ。

一方、東京染小紋（江戸小紋）は武士の袴の型染めから生まれ、無地と見まちがうほどの細やかな文様で、町人たちに愛された。

こうして江戸から受け継がれた「粋」、個性や独自性が発展した「モダン」が調和し、東京手描友禅や東京染小紋は現代に伝えられている。

三大友禅の特徴

東京

白・紺・茶など落ち着いた色合い。動植物・文芸・景物などの絵柄・配置ともに作り手独自の個性があふれる。

京都

華麗で鮮やかな、豊かな色彩を用いた動物や器物をモチーフとする文様。刺繍や金箔など豪華な装飾。

加賀

臙脂・藍・黄土・草・古代紫の加賀五彩を基調とし、写実的な草花模様を中心とした絵画調の柄。

東京手描友禅の一般的な製造工程

① 図案・下絵 図案を決め、湯のしした白生地に青花（水で落ちる液体）で下絵を描く

② 糸目糊置き 染料のにじみを防ぐため、模様の輪郭に沿って糊を置く

③ 地入れ 豆汁・布海苔を塗ってにじみを防ぎ、地色を染める

④ 友禅挿し 模様部分に筆や刷毛で染料（色）を挿す

⑤ 引き染め 友禅挿しの部分に糊を伏せ、刷毛引きで地色を染める

⑥ 蒸し・水洗 染料を生地に定着させ、余分な染料・糊を洗い落とす

⑦ 湯のし 湯のし機にかけて、幅や丈を整える

⑧ 仕上げ 刺繍・紋入れ・染色補正・金彩などを施して完成



新宿の染め その細やかな技法

型染めの図案と色



▶ 小紋（江戸小紋）
伊勢型紙を用いて細やかな文様を染める。遠目には無地に見える「粋」が魅力



▶ 紅型
沖縄発祥の琉球染めが江戸でも発展。糊を置いた後、色挿し・隈取りを施す



▶ 更紗
インド発祥の文様染め。複数の型紙と色を重ねて染めあげる



糸目糊置き

手描きされた下絵の輪かくに沿って、細く、一定の厚みで糊を置く

友禅挿し



数種の筆や刷毛を使い分け、模様部分に染料を挿す。乾燥を早め、にじみを防ぐため、生地の下に熱源を置いて作業する



引き染め



反物の両端を引いて吊り、幅広の刷毛で手早く染める

しんせん 浸染



湯をわかし助剤と染料を入れた染浴をたて、生地を入れる。色合せをしながら染め、最後に水洗いする

湯のし



染める前の白生地や染め上がった反物に蒸気をあてて反物の幅を一定に整える

仕上げ



▶ 刺繍
直線で表現する「刺（さし）」と曲線的な「繡（ぬい）」で模様立体感を加える



▶ 紋入れ
極細筆や竹製のコンパスを使い、糊で防染した部分に家紋を描き入れる



▶ 金彩
筒描き、摺箔、砂子、切箔などさまざまな技法で模様彩りを添える



▶ 染色補正
染めむらや汚れを修正。着用後の手入れとしてしみ抜きも行う

あらはり 洗張



仕立て直しや汚れを落とすために抜糸をし、ほどいて洗浄を行う

引染

なかむら ひろゆき
中村 博幸

ふじや染工房

MAP10 新宿区高田馬場 3-28-13

TEL : 03-3368-8559



昭和 23 年生まれ。同 27 年に父が創業した「ふじや染工房」の 2 代目。17 歳で父を亡くし、父の残した技法を職人から教えてもらいながら 18 歳から引染の道へ。以来 50 年以上のキャリアを持つ。

「引染」は、糊を置いた友禅や小紋の反物を両端から引いて吊った状態で染めていく。生地に豆汁（ごじり）と布海苔（ふのり）で「地入れ」という下処理を行い、乾燥させたあとに染料を含ませた幅広の刷毛で一気にムラなく染める。その後に行う乾燥、蒸し、水元（水洗い）、乾燥の工程もすべて行っている。

気温や湿度が大きく影響するため、工房内は真夏でもストーブを焚いて一定の温度と湿度を保つ。本来の色をしっかりと見極めるために室内灯は使わない。長年の経験により染めや蒸しの段階で起きる発色の変化を想定し、単純な色ほど難しいと言われる色でも美しく染める技術を持つが、色作りに卒業はないと考えている。

[新宿ものづくりマイスター平成 28 年度認定]



柄を染めないように糊を置いた状態



両端から引いた状態で作業と乾燥を行う

引染

なかむら たかとし
中村 隆敏

ふじや染工房

MAP10 新宿区高田馬場 3-28-13

TEL : 03-3368-8559



昭和 52 年生まれ。「ふじや染工房」2 代目の父より引染技法を習得し、3 代目として現在に至る。

引染は、幅広の刷毛に染料を含ませむらなく均に染める「引ききり」と、ぼかしながら染める「ぼかし染め」があり、どちらも表と裏の両方から染める。

約 13m の生地（反物）を両端から引き、吊った状態で染めるため土間は充分な広さがある。

その後、蒸し箱で蒸して染料を定着させ、水元では余分な糊や染料を洗い落とす。

顧客の要望通りの色に染めるため、色合わせを丁寧に行っている。「黒ではないが黒に限りなく近い色」というような微妙な要望にも応える。最近は室内照明に LED が増え、灯りの下では希望の色と違って見えてしまうといった難問にも取り組む。

新宿区染色協議会主催のイベントの際には来場者に引染の工房や技術を公開するなど、染めの普及に積極的にあたる。

[新宿ものづくりマイスター令和元年度認定]



生地を均一に染める「引ききり」



模様の際までグラデーションをかける「ぼかし染め」

無地染



ふくむろ りゅういち
福室 隆一

福室染工場

MAP 1 新宿区中落合 4-21-17

TEL : 03-3953-6048

昭和 14 年生まれ。「無地染」は染色技法のなかでも最も基本的な「煮て染める」技法。かまどにかけた大鍋のなかで布を回しながら染める伝統的な作業を 60 年以上続けている。

和服生地地の染めは、まず、絹（生糸）に含まれるセリシンなどの成分を薬品で取り除き、その薬品を水洗いで落とす。その後、注文の色に合わせた染料を調合。温度を見極めながら釜で煮るように染めていく。

温度管理も重要。釜のまわりからは湯気があがり、その温度は約 85℃。夏場の作業環境は特に厳しく、やけどは日常茶飯事とのこと。

例えば黒無地に仕上げるときは、染めの過程で最初に紅や藍で染め、それから黒色染めにすると仕上がった黒に深みが増すという。微妙な色加減は簡単ではない。

新宿区染色協議会の若手技術者に技術指導にあたるほか、絞り染めの体験会を実施するなど、周知と地域に貢献している。

[新宿ものづくりマイスター平成 23 年度認定]



熱い釜の中で布を回して染める



色合わせ



無地染のスカーフ

浸染



う さ み りゅうぞう
宇佐美 隆三

宇佐美捨染工所

MAP 5 新宿区北新宿 4-25-13

TEL : 03-5330-6816

昭和 23 年生まれ。「宇佐美捨染工所」の 2 代目。父、宇佐美捨治郎に師事し、同 47 年より就業。以降、浸染（無地染）に 49 年間従事する。

着物の反物の代表的な染め方である浸染は、染料を溶かした液体の中に白生地を浸し、適度な温度と時間を与えて染め上げる技術。受注者からの要望に応える正確な「色合わせ」が重要となるが、その色を構成している明度、彩度、色合いを見極める能力に優れ、長年の経験による色合わせの技術が高く評価され「染見本帳」の製作も行っている。無地染の応用として防染技法による絞り染のような柄染めも行い、その技術に定評がある。

新宿区染色協議会や東京都染色工業協同組合の浸染部にて技術指導も積極的に行っている。伝統工芸士。東京都伝統工芸士。東京マイスター。

[新宿ものづくりマイスター平成 27 年度認定]



染めながら、出したい色を見極める



色見本帳の 1 ページ

湯のし

よしざわ さとし
吉澤 敏

見学可

(有) 吉澤湯のし加工所

MAP 7 新宿区上落合 1-9-8

TEL : 03-3368-2521



昭和 39 年生まれ。平成 9 年に家業の「吉澤湯のし加工所」を継承し、3 代目として就業。

「湯のし」とは、蒸気によって反物の幅を均一に揃えたりしわを伸ばす、染め物の最終工程。蒸気を使うことで絹織物特有の艶や照りがでる。

湯のしには、手作業による「手のし」、機械を利用した「湯のし」とがあるが、現在行われているのは機械によるものがほとんど。

複数の反物を縦につなぎ合わせて1枚の長い布にし、専用の機械にかける。その加工時間は短く、1反あたり約1~2分。視覚と手ざわりで反物の状態、変化を瞬時に見極める能力に長けている。

吉澤湯のし加工所の特徴は、どの湯のしでも、よりまっすぐにそろった布目にするため、「2回のし」を行っていること。美しい仕上げには手間暇を惜しまない。

落合・中井を染の街として発信するイベント「染の小道」では役員を務めるほか、継承への取り組みも積極的に行っている。新宿区染色協議会会長。

[新宿ものづくりマイスター平成 26 年度認定]



幅を揃え、しわを伸ばす



複数の反物をつないで機械にかける

日本刺繍

いしざき なおじ
石崎 直治

※現在は引退されています



昭和 9 年生まれ。数百種もの絹糸で繊細な絵柄を抜上げる日本刺繍は精緻の極み。刺し方のバリエーションだけでなく、染めとの組み合わせで装飾性を高めることが追求されてきた。

日本刺繍も友禅と同じように生産地によって京刺繍、加賀刺繍、江戸刺繍と呼ばれる。江戸刺繍は染めの着物に効果的な「あしらい」として刺されることが多い。

極細の絹糸に「より」をかけながら一針一針刺していく技術は仕上がりの華やかさとは対照的に地味で根気のいる仕事。父を師にその技を磨いた。手先の器用さよりも熟練が問われると言う。

微妙なグラデーションは、1色に対し20段階ぐらいある濃淡の糸を使う。欲しい色がなければ、自分で糸の染色も行う。

これまでに多くの弟子を独立させたほか、刺繍教室でも指導を行い日本刺繍の継承に努めてきた。東京都伝統工芸士。

[新宿ものづくりマイスター平成 21 年度認定]



ミニ額に入れて楽しめる



髪の毛の一本一本まですべて手で刺す

紋章上絵・染色補正



きたがわ みきお
北川 幹雄

(有) 幾久清

MAP15 新宿区早稲田鶴巻町 521

TEL : 03-3202-0964



昭和 26 年生まれ。大正 7 年創業「幾久清」の 3 代目。京都で修行した祖父が戦後早稲田鶴巻町に移り、当時は「染色補正（しみ抜き）」を専門としていたが、染色補正の技術が「抜き紋」にも活かせることに着目し、自身の代から紋章上絵の仕事始めるようになった。

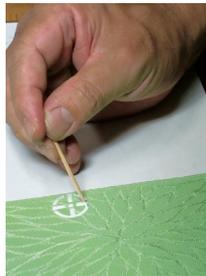
平成 4 年には国家検定の「一級染色補正技能士」を取得。「和服に家紋を描きあげる」紋章上絵には、礼装に家紋を描く「入れ紋」、色留袖、色無地などに紋を抜いて描く「抜き紋」などがある。

抜き紋では「紋型紙彫り」「色あわせ」「摺り込み」「しべ（線）描き」などの伝統技法を用い、ぶんまわし（竹製コンパス）や上絵筆で書き入れていく。

ブッシュ元大統領夫人を前に実演した際、技術の解説、「家紋」と「紋章」との違いなど、通訳を介さずに英語で説明したという逸話の持ち主。

後継者育成も積極的に行い「東京紋章組合」での指導実績、新宿区染色協議会のイベント等への地域への貢献を図る。

[新宿ものづくりマイスター平成 25 年度認定]



抜き紋の作業



ぶんまわし（竹製のコンパス）を使う

染色補正



まつだ みつじ
松田 光二

(有) 松田

MAP 4 新宿区上落合 2-21-25

TEL : 03-3368-1594

見学可

昭和 17 年生まれ。「見て覚える」が当たり前だった時代に住み込みで修業し、32 歳で独立。

「染色補正」は、染色の工程で生じる汚れや難点を除き、完全な商品として仕上げる技術。色ムラが出てしまった部分に本来の色を還元させるには「補色」と呼ばれる色への造詣が必要になる。

難点や汚れを取り除くことは製品の長持ちにもつながるため、染色において価値を守る技術とされている。

作業の基本は「しみ抜き」。着物の材質や地の色、文様に合わせて染料を合わせたり色を抜くには瞬時の判断が重要。

最近の化学繊維は絹に近い肌触りのものもあり、身に付ける繊維として進化しているせいで、クリーニングとなると純粋な絹生地より難しい。そんな事情があつてか貸衣装店からドレスのしみ抜き依頼も飛び込む。

これまでに 3 人の弟子を独立させた。一般向けの「しみ抜き」体験教室などを通じ、技の普及に努めている。

[新宿ものづくりマイスター平成 22 年度認定]



地直して仕上げる



今では作り手が少なくなった貴重な作業道具

技にふれる

職人さんのスゴ技を見に行こう!

◆ 神田川 水べの染め体験 ◆

【開催時期】7月下旬または8月上旬（詳細はお問合せ下さい）

【開催会場】戸塚地域センター・神田川親水テラス

昭和30年代まで神田川で実際に行われていた染色の工程「水元（みずもと）」の再現が体験できます。かつて、まちを彩る日常風景だった川で反物を洗う様子をお楽しみください。近くの区民センターでは染色体験や着物の展示、染小物の販売も実施します。



◆ お江戸新宿・紺屋めぐり ◆

【開催時期】10月下旬～11月上旬（詳細はお問合せください）

【開催会場】落合・高田馬場・早稲田にある染め物工房

紺屋とは染物屋のこと。染め物には多種多彩な業種があります。江戸小紋・江戸更紗・東京手描友禅・江戸刺繍・糊画・紋章上絵・染色補正・洗張・湯のし等、新宿区内の神田川・妙正寺川流域を中心に、落合・高田馬場・早稲田にある工房を期間中に見学できます。

◆ 染の小道 ◆

【開催時期】2月下旬（詳細はお問合せください）

【開催会場】西武新宿線・都営大江戸線「中井」駅周辺

2009年に地域のギャラリーや染色工房が集まり、町と染をつなぐ取り組みとして始まった「染の小道」。150枚近くの反物が川に架かる「川のギャラリー」と、染色工房、お店、銀行、コンビニなどに飾られた100人以上の染色作家による暖簾が楽しめる「道のギャラリー」。今では中井周辺120か所ものお店が参加しています。



お問合せ先 新宿区染色協議会



職人さんのスゴ技を近くで見よう!

◆ しんじゅく逸品マルシェ マイスター実演コーナー ◆

【開催時期】11月下旬（詳細はお問合せください）

【開催会場】新宿駅西口広場イベントコーナー



毎年秋に開催している「しんじゅく逸品マルシェ」では、区内企業や商店による逸品の販売とともに「新宿ものづくりマイスター 技の名匠」による技の実演をお楽しみいただいています。



東京手描友禅

飯島 武文さん

染名古屋帯に繊細な模様を描くところを見せていただきました。



革製品製造

鮎澤 剛さん

手縫いでつくる革小物の制作過程を見せていただきました。

金属原型彫刻

坂本 国雄さん

金属の塊に繊細なデザインを彫るところを見せていただきました。



洋裁

佐藤 順子さん

留め袖をワンピースにリメイクする工程を見せていただきました。



職人さんのスゴ腕を、動画で見よう!

◆ 新宿ものづくり産業発信動画 ◆

「新宿ものづくりマイスター」を中心に新宿の「ものづくり産業」を動画で紹介しています。英語テロップ版も公開しています。YouTubeでも発信中!

公開中!

新宿ものづくり産業発信動画



アートに出会う街 新宿



着物・つまみかんざし・楽器の魅力素敵なストーリーでつながります

新宿刷綴



「活版印刷」と「和綴製本」の魅力をお伝えします

語る装 新宿



服・靴・バッグの「一点もの」の製作工程をお伝えします

新宿から届ける

刷る 綴じる

新宿区の印刷業は、明治中期に秀英舎（現在の大日本印刷株）が

市谷加賀町で業務を開始したことに伴います。

印刷・製本に関連する業種が区内に多く集まり、発展しました。

紙への印刷や製本にとどまらず、多様な事業者が集まっていることも特徴です。

IT化の普及をプラスに捉え、付加価値の高いサービスをめざす

新しい取組みも行っています。



活版印刷



さ さ き せい い ち
佐々木 精一

見学可

(有) 佐々木活字店

MAP17 新宿区榎町 75

TEL : 03-3260-2471



昭和 16 年生まれ。大正 6 年に祖父・佐々木巳之八が創業した佐々木活版製造所（現在の佐々木活字店）の 3 代目。昭和 35 年 19 歳で仕事に就き、平成 29 年には創業 100 周年を迎えた。

「佐々木活字店」は平成 23 年に新宿区地域文化財に登録された。現在は活字の鑄造・文選などを 4 代目のご息が担当し、精一氏は主に印刷を担当する。

活字は鉛・すず・アンチモンの合金が原料。自動活字鑄造機で作製しているが、機械の生産がすでに終了しているため調整・整備はすべて自社で行う。

所有活字は約 700 万文字。活版（凸版）の特徴であるエッジ効果（文字の輪郭部分のインキ濃度が高くなる現象）を活かした立体感のある印刷や、紙色と色を合わせるデザイン重視の印刷、指定色の再現をめざす高品質な印刷物の作成など、多種多様な技術を持つ。

これらの設備と技術を持つ職人は都内でも数少ない。そのため自社以外にも鑄造活字を供給するほか、工場を開放した「鑄造見学会」などの勉強会も行い、活版印刷の特徴や魅力を発信している。

[新宿ものづくりマイスター平成 27 年度認定]



「すだれケース」に整然と並ぶ活字

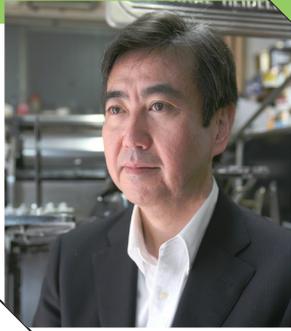


「文選」作業



活字で組んだ年賀状用の板

活版印刷



たかおか まさお
高岡 昌生

(有) 嘉瑞工房

MAP22 新宿区西五軒町 11-1

TEL : 03-3268-1961



昭和 32 年生まれ。英国王立芸術協会 (RSA) フェロー、モノタイプ社アドバイザー。

嘉瑞工房は、創始者・井上嘉瑞氏が本場・ロンドンでタイポグラフィの研鑽を積み設立された。平成 26 年には設立 60 周年を迎え、高岡氏の父・重蔵氏から昌生氏に技術と経験が引き継がれた。

タイポグラフィとは、印刷用の書体を読みやすく、かつ美しく並べる技術。

活版印刷で 5 トンあるという鉛の活字からひとつひとつを選び、整える。その工程を経て作られた文字には、デジタル化された印刷では表現できない繊細さ・鮮明さ・力強さがある。なかでも名刺・招待状など、欧文文字を主体とした印刷物を得意とする。

タイポグラフィ、欧文組版の企業アドバイザー、コンサルティング。関連書の執筆も行い、美術系の大学やセミナーなどで講師を務め、後進の指導に情熱を注ぐ。

[新宿ものづくりマスター平成 21 年度認定]



欧文書体



欧文組版

製本



わたなべ ひろゆき
渡邊 博之

(株) 博勝堂

MAP21 新宿区西五軒町 9-1

TEL : 03-3269-5248

見学可



昭和 31 年生まれ。同 53 年、大日本印刷 (株) に入社。約 5 年間パッケージ関連の営業職を経て、家業の博勝堂を継承する。

工場製本を学んだ後、和綴じ職人の道へ。教本や古典芸能の教本、神社・寺社の朱印帳など、機械では加工できない手作業ならではの繊細な技術を習得。国家資格「製本一級技能士」取得。

博勝堂の 2 代目となってからも、麻の葉綴じ、本大和綴じなど伝統的な製本を手がける一方で、顧客から持ち込まれる「折り・綴じ、その他の特殊加工」を必要とするデザイン性の高い複雑な仕様の特装本にもチャレンジする。

平成 24 年より中央職業能力開発協会の検定委員を務め、東京都製本高等技術専門学校で校長を歴任。現在も和綴じに関連する科目の講義を受け持つ。

新宿区内の地域イベントでは和製本 (製本) 体験教室を開くなど、一般にも広く製本の伝統と文化を伝承している。東京マイスター。

[新宿ものづくりマスター平成 25 年度認定]



和綴じ作業。絶妙な力加減で綴じる



教壇に立つ際にも欠かせない製本道具一式

製本



いのう え ただし
井上 正

見学可

和光堂 (株)

MAP18 新宿区山吹町 341

TEL : 03-3260-7271



昭和 35 年生まれ。大学卒業後に海運会社に 4 年間勤めた後、家業を継ぐ。書籍・カタログ・パンフレット等、製本の枠を超えた紙を用いた加工のディレクションに携わる。

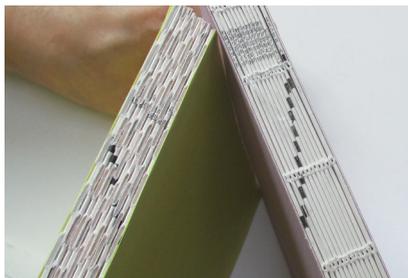
製本には「無線綴じ」「あじろ綴じ」「スレッドソーイング（丁合後糸かがり）製本」「スレッドシーリング（折りながら糸かがり）製本」などがある。

このうち、糊のみで接着する「あじろ綴じ」と「スレッドシーリング製本」を複合した「アスレ製本®」の開発に成功。最初と最後の折にスレッド加工をし、中間の折丁をあじろ綴じ加工にしたもので、頑丈で開きやすい製本を実現した。

この独自技術により加工期間と単価を圧縮。また、一般的に難しいとされている合成紙「ユボ」の製本にも成功。紙そのものの構造に踏み込み、問題解決を図りながら新しい技術を生み出している。

東京製本高等技術専門学校では「デザイン概論」の講座を担当、後進の指導にあたる。コスト面でも顧客の満足度につなげることを指導し、製本の価値を高め、本の魅力を創り出していくことを目指す。

[新宿ものづくりマイスター令和元年度認定]



あじろ綴じ (左) スレッドシーリング製本 (右)



ラグビーボール型の冊子



剥がれ落ちないように工夫された接合部分

製本



あお き つとむ
青木 勉

司製本 (株)

MAP23 新宿区東五軒町 5-19

TEL : 03-3260-2483

昭和 9 年生まれ。16 歳より製本業に携わる。「和綴じ本」の第一人者として活躍した。

和綴じは「四つ目綴じ」「康熙（こうき）綴じ」「亀甲綴じ」「麻の葉綴じ」など、呼び方も優雅。彩やかな手さばきで美しく仕上げ、また、洋書の手製本においても数少ない技術者として活躍してきた。

紙の特性によって糊の濃度を替え、開きやすい製本というものを常に心がけながら品質の向上に努めてきた。その一方で工程管理には合理化を求めるなど、経営面でも工夫をこらしてきた。

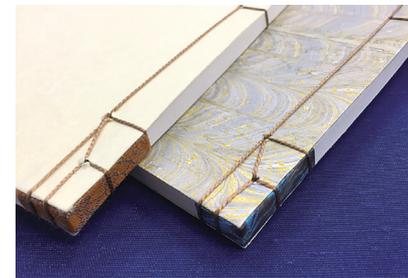
東京製本高等技術専門学校では後進への技術指導を行い優秀な人材を多く育てた。

世の中が IT へと急激にシフトするなか「紙文化」継承の必要性を感じ、機会があれば、一般の人々にも「和綴じ」の実演や体験教室を積極的に行っている。

[新宿ものづくりマイスター平成 20 年度認定]



確かに美しい装丁と和本保存用の「帙（ちつ）」



「麻の葉綴じ」が美しい和紙ノート

シール印刷



かねひら きんじ
兼平 欣治

※現在は引退されています

昭和9年生まれ。特殊なシールへの印刷、シルクスクリーン印刷などの特殊印刷業に携わる。

シール・ラベル製品を製造する印刷機は、印刷→浮き出し→打ち抜き→ラミネート加工などを同時、あるいは連続的に行うため、一般の印刷機とは構造が大きく異なる。

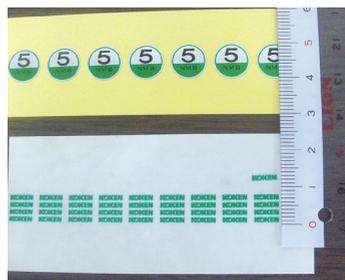
シール印刷の方法も、凸版印刷、オフセット印刷、スクリーン印刷、フレキシ印刷などがあり、なかでもシルクスクリーン印刷を得意とする。

長年の創意工夫により培った独自の技術により高精細・高精度なシール印刷を可能とした。薄いシール材の抜き、弾力性のある素材や木材への印刷も可能。

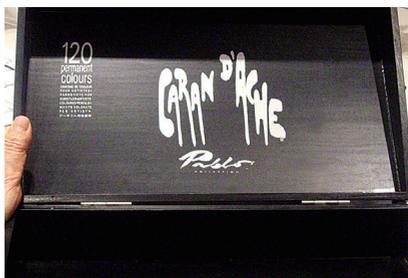
高い技術を必要とする医療機器用に貼るシールへの印刷技術は業界内外から高く評価された。

自らの技術を惜しみなく同業者へ普及することに努め、特殊印刷業の発展に貢献してきた。

[新宿ものづくりマイスター平成20年度認定]



ミリ単位の幅のシール



木箱に箔を印刷



発光素材に印刷した自転車登録シール

技にふれる

地場産業を体験しよう!

◆ 大新宿区まつり ふれあいフェスタ ◆

【開催時期】 10月中旬 (詳細はお問合せください)

【開催開場】 都立戸山公園 (大久保地区)、新宿スポーツセンター

平成元年から毎年開催している、新宿区最大の区民のお祭り。区民・区内の団体・NPOなどのブース出展、ミニSLなど親子で参加できる催しが盛りだくさん! 製本体験・染色体験も行っています。



製本体験



染色体験

◆ しんじゅく逸品マルシェ 地場産業体験コーナー ◆

【開催時期】 11月下旬 (詳細はお問合せください)

【開催開場】 新宿駅西口広場イベントコーナー

毎年秋に開催する「しんじゅく逸品マルシェ」では、逸品の販売とともに、新宿の地場産業も体験できるコーナーを設けています。

印刷・製本体験コーナー



オリジナルリングノートの製作を体験

染色体験コーナー



「型染め」「絞り染め」を体験

お問合せ先

一般社団法人 新宿区
印刷・製本関連団体協議会



新宿区染色協議会



新宿に育つ

音と響

新宿区の高田馬場・大久保・新宿駅周辺には楽器店が多く集積しています。

これは、戦後の景気回復とともに新宿駅周辺に

ダンスホールやキャバレーが登場し、音楽家が集まることで

楽器の購入や修理に需要があったことと深い関係があるようです。

楽器の製作や修理はそのほとんどが手作業で行われますが

日本の高度な技術は、国内外の演奏家から大きな信頼を得ています。



管楽器製造

いしもり しんじ
石森 信二

(株) 石森管楽器

MAP39 新宿区百人町 1-20-23

TEL : 03-3360-4970



昭和 38 年生まれ。同 26 年に修理工場として創業した石森管楽器の 3 代目。管楽器のパーツを手作りする技術者。

管楽器の製造の中でも木管楽器のパーツは多岐にわたる。それらの素材、構造を研究し、自社のオリジナルブランド「WoodStone」として商品開発を行ってきた。

クラリネット、サクソフォンのリガチャー、リード、マウスピースなどが代表的だが、これらの手作りのパーツは評判が高く、世界中の一流奏者が音色の向上を求めて来店する。

それらの質の高さは、マウスピースを含む数々の商品が特許を得ていることからもうなずける。

石森管楽器ではメンテナンス・リペアにも力を入れる。交換するパーツの種類は独自のものを含めて数百種類。その楽器のメーカー、製造年代、状態やリクエストに応じて使い分ける。

また、自社で多くの技術者を育成するだけでなく、海外メーカーにも赴き技術指導にあたる。

[新宿ものづくりマイスター平成 22 年度認定]



独自ブランド「ウッドストーン」のロゴ



マウスピースもオリジナル
上段写真提供：しんじゅくノート 撮影：小橋輝雄

管楽器修理 (フルート)



いとう ふみやす
伊藤 史安

村松楽器販売 (株)

MAP41 新宿区西新宿 8-11-1

TEL: 03-3367-6000



昭和 39 年生まれ。音大でフルートを学んだ経験を活かしフルートのリペアマンとなる。村松フルート製作所にて製作される「ムラマツフルート」の直営店にてフルートの調整・修理にあたってきた。

楽器の修理は製作と同じくらい難しい。外見上のメンテナンスだけでなく、本来その楽器が持つ健康な音に戻すことが求められるからである。自身がフルートを吹けることで、プレイヤーが求める音の微妙なニュアンスも理解できるし、奏法への理解があることもプラス要素になったと言う。

音程を変化させるためのキーには「タンポ」と呼ばれるパッドがあり、その材質には現代でも天然素材の羊の腸を用いるが、より正確性を持たせるため、中に独自の新素材を使うなど、細かな工夫や調整も加えてきた。



ムラマツ総銀製 DS モデルと All14 K ゴールドモデル



ムラマツ 14 K ソルダード トーンホールモデル



ムラマツ新パッドシステム分解写真

[新宿ものづくりマイスター平成 21 年度認定]

管楽器修理 (オーボエ・バスーン)



はぎもり みかお
萩森 弥郁夫

(株) ルボア

MAP40 新宿区西新宿 7-19-9 西新宿ビル

TEL: 03-5989-1157



昭和 33 年生まれ。管楽器の中でもオーボエ、バスーン専門の修理に携る。

特に全長約 65cm のオーボエは、グレナディア、ローズウッドといった黒檀や紫檀に似たボディが特徴。その中には 250 ~ 400 個の細かい部品が組み合わさり、複雑に連動して音が奏でられる楽器。

その複雑な構造を熟知し、メーカーごとの特徴、演奏者の要望に応じて調整・修理を行う。

演奏を教える立場にある音楽大学の教授や世界中の多くのプロ奏者たちからも大きな信頼を受ける。その技能が評価され、コンクールが行われる都市に同行し、開催期間中滞在して調整対応も行うこともある。

工房では技術の伝承と後継者育成にも力を入れる。「理論のみでなく、微妙な感覚を体で覚える」ことを基本とする。

そのほか、修理・調整のボランティアを行うなど、管楽器への理解と周知のための社会貢献も積極的に行っている。東京マイスター。

[新宿ものづくりマイスター平成 24 年度認定]



管楽器修理 (管楽器全般)



たかはし いちろう
高橋 一郎

高橋管楽器

MAP37 新宿区大久保 2-16-33 高橋ビル 1階

TEL: 03-3209-7750



昭和 23 年生まれ。新宿区大久保は、全国の目利きがこぞって集まる音楽と楽器の街。高橋管楽器は、同 15 年に父・治雄氏が起業。日本で初の個人経営による管楽器修理専門店。戦後、進駐軍が日本に滞在しジャズが広まったことから、楽器の修理依頼が舞い込むようになったという。

今では、国内外の奏者から木管楽器・金管楽器の修理や調整の依頼が来る。先代からの信頼と技術を引き継ぐ優れた技術の持ち主である。

修理の依頼の約 8 割はサクソフというが、なかでも木管楽器サキソフのメンテナンスを得意とする。アメリカ製の古いものから、あらゆる年代・さまざまなメーカーのものを扱う。

奏者が一定のパフォーマンスを見せるためのメンテナンスは多種多様。音程や音質を司る「構造的な部分」から劣化しやすい「部品の交換」。手になじむ道具としての「微細な調整」。すべてに卓越した技能を持つ。

ご子息に後継者の指導を行いながら技術の継承に努めている。

[新宿ものづくりマイスター平成 21 年度認定]



新しい工房も 10 年目となる



3 代目のご子息・大輔さん(右)と
写真提供: しんじゅくノート 撮影: 小橋輝雄

管楽器修理 (管楽器全般)



たご とも
多湖 朋

見学可

(株) ダク

MAP38 新宿区百人町 2-8-9

TEL: 03-3361-2211



昭和 39 年生まれ。同 58 年管楽器専門店・株式会社ダクに入社。平成 13 年に約 1 年間ドイツ「ヘルムート・フィンケ」「ベルント・C・マイヤー」「B&S GmbH」にて金管楽器製作・修理の研鑽を積む。

トランペット、ホルン、チューバなど様々な金管楽器を扱うが、特にトロンボーンの修理を得意とする。

トロンボーンには音程の高低を生み出す「スライド」と呼ばれる部位があり、曲り・ねじれ・凹みの修正は、不具合を見つけるだけでも年季を要する技術と言われる。旋盤、研磨機、フライス盤、ボール盤などの道具や機械を用いて丁寧かつ確に修理する。

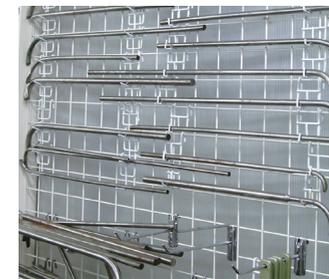
リペアだけでなく、加工全般にも対応。特注品のパーツ作成やマウスピースの加工まであらゆる相談を受け付ける。

自身も地域の吹奏楽団でトロンボーン奏者として活動。楽器が体の一部にもなる感覚を自ら熟知しているため、プロ・アマを問わず多くの奏者から高い信頼を得ている。東京マイスター。

[新宿ものづくりマイスター平成 25 年度認定]



旋盤



凹み修正用芯金

琴・三味線修理



たかはし としたか
高橋 俊隆

(有) 高橋琴・三味線店

MAP13 新宿区高田馬場 1-31-8-109

TEL: 03-3209-6531



昭和20年生まれ。先代である父が営んでいた板橋の高橋楽器店で16歳より琴や三味線の製造・修理を学ぶ。26歳で独立し、現在の店を構える。三味線は皮張りや糸巻の調整を、琴は中の削りや糸締めを、いずれも先代から引き継いだ伝統的技法に則り修理に携わる。

三味線の修理においてもっとも技術と熟練を要する工程は「胴の皮張り」であると言われている。三味線の音色は皮の張り具合で決まるからである。張り台、木栓、くさび、ロープを用い、胴に皮を張る。皮は今も犬・猫の薄皮が使われている。

棹や胴にも花梨・紅木(こうき)・紫檀(したん)などの天然素材を用い、素材それぞれの特性を見極めながら、よりよい音色づくりを心がける。

後継者であるご子息にもその技術を伝えている。また、和楽器体験を取り入れている新宿区内の中学校で琴・三味線・バチの修理を行うなど、教育機関での和楽器伝承にも貢献している。

[新宿ものづくりマイスター平成29年度認定]



張り台の上で胴に糊をつける



皮の周囲をきれいに切りそろえる

弦楽器製造



やまもと たかし
山本 隆志

※現在は引退されています

昭和19年生まれ。コントラバスはジャズやオーケストラに不可欠の弦楽器。高さ約2m、重さ約10kgのとても大きな楽器。日本でも数少ないコントラバス専門店「弦楽器の山本」にて、長年その製造と修理にあたってきた。

奏者とのコミュニケーションを何より大切に。やり取りの中で交わされる些細な言葉にこそ不調を見つけるヒントが潜んでいると言う。木製の楽器なので気温や湿度の影響をまともに受けるが、弾いているうちに歪むこともあり「なんとなく手に引っかかる感じ」という一言から不調の箇所を見出したこともあった。

修理は演奏者の個性や希望に合わせて行われ、楽器の心臓部とも言える「魂柱(こんちゅう)」や「バスバー」を知り尽くした修理技術の高さはプロ・アマ問わず絶大な信頼を得た。

「モンテリプロ」の名でオリジナルブランドの楽器を販売したり、若い技術者の育成や若い音楽家の支援も行い、精力的な仕事を行った。

[新宿ものづくりマイスター平成22年度認定]



コントラバスは長さや形がさまざま



内部を縦に通るバスバー。音の振動を表板に伝える

たかはし さやか
高橋 紗耶香さん

祖父に導かれた友禅染めへの道

祖父が中野区で手描友禅の絵師をしていたという高橋さん。大学卒業後の初任給で着物を購入。それまで眠っていた友禅染めへの熱意を再確認し、紹介を受け熊崎さん (P.11) に入門。5年が過ぎた。古典柄から現代柄まで重厚さも緻密さも兼ね備える師匠。その背中を追い、和裁や着付けを習う。その意欲と祖父ゆずりのセンスに、師匠の期待も大きい。「祖父が描いた図案にぬり絵をしていたころを思い出します」。帯・着物だけでなく、小物づくり、男性用着物の仕立て…と、高橋さんの夢は尽きることはなさそうだ。



ちからいし だいすけ
力石 大輔さん

信頼されるリペアマンに

高校時代、吹奏楽部で金管楽器・ユーフォニアムを吹いていた力石さんは、目の前で楽器を修理するダクの営業マンに出会う。「高校2年生で進路に悩み、漠然と音楽関係の仕事…と思っていたので『これだ!』と思いました」。専門学校で管楽器の修理を学び、就職。念願のリペアスタッフに。「ダクは海外の一流メーカーの総代理店でもあるので、そのスタッフとして恥ずかしくないスキルをめざしたいです」。目標は、先輩であり師匠でもある多湖さん (P.43)。そのオールマイティな技量をめざして力石さんの歩みは続く。



◆◇◆ 技をつなげる ◆◇◆



新宿のものづくりを担う次世代たちにインタビュー

PART
1



まつだ れいな
松田 玲奈さん

もっともっと、頭に描いた色が作れるように

松田さんが江戸小紋と出会ったのは、東京都主催の「職人塾」という職場体験企画。約1か月金田さん (P.9) のもとで体験し弟子に。重いものを運び、何キロもの反物を手作業で洗う。夏は40℃を超える室内。「体力勝負でしたが、あっという間の7年でした」と語る。現在は、糊を混ぜ込んで色を作る「色場」を担当。「仕上がりイメージと合ったとき、仕立てられた着物をまとったお客さまとお会いしたときの喜びは格別。この仕事だから味わえるものだと思います」。松田さんはこれからもオンリーワンの色を作り続ける。



おかもと ゆきこ
岡本 友紀子さん

教わり、教える和の文化

伝統的な製本「和綴じ」を得意とする(株)博勝堂には、日本全国から依頼が舞い込む。中には皇室へ献上する品もあるほどだ。この道10年の岡本友紀子さんは、読書好きが高じて製本の世界に飛び込み、東京製本高等技術専門校の校長も務める渡邊さん (P.33) から指導を受けてきた。美しく仕上げる技術力の高さは、天然糊の濃度や塗布量を天候・素材に合わせ、短時間で調整する手際の良さからも明らかだ。「ゆくゆくは会長のようにマイスターを目指したい」と自身の研鑽を誓う一方で、後進の育成にも力を注ぐ。



新宿で作る

あつら 眺める 設える

こしら 拵える

新宿区は国際色にあふれる

にぎやかな姿を見せる一方で

歴史と伝統が息づく個性豊かな都市として

さまざまな産業や文化が発展してきました。

その多様性は、私たちの暮らしに身近な

ものづくりにも反映されています。



つまみかんざし製造



いしだ つよし
石田 毅司

体験可

イシダ商店

MAP12 新宿区高田馬場 4-23-28-401

TEL: 03-3361-3083



昭和 34 年生まれ。和装用の髪を飾る「つまみかんざし」の製作者。祖父の代から続く 3 代目。現在都内では 5-6 軒、日本全国でも 10 数軒しかいない貴重な技術者。

つまみかんざしは江戸時代に上方で起こり江戸に伝わった。今でも七五三で女の子が着ると共に付ける姿を見ることができる。

羽二重（はぶたえ）と呼ばれる薄い絹地を小刀で小さな四角片に切り、ピンセットでつまんで三角形に折り畳む。その技法がそのまま名称となった。角を鋭角につまむ「角つまみ」と丸くならかにつまんだ「丸つまみ」が基本のパーツとなる。糊を付け、台紙の上で組み合わせて造形し、そのあと糸で組み上げていく。

得意なモチーフは四季の草花。しかしデザインは難しい。「いろいろなことに興味を持ち、いろいろなものを見ること」がアイデアのヒントになると言う。



ちがうデザインを組み合わせるとかなり豪華



洋装にも合いそうなモダンなデザイン

[新宿ものづくりマイスター平成 20 年度認定]

紳士服製造



まつだ よしあき
松田 義明

(株) テーラーマツダ

MAP35 新宿区新宿 6-16-22

TEL : 03-3352-0008

昭和9年生まれ。同32年日本洋服専門学校裁断科を卒業。翌33年(株)テーラーマツダを設立。

世界で初めて「側面採寸」を研究し、側面計測定規を開発。横から採寸することで補正をしない製図を考案した。そのほかにも、アイロン処理における「シェーブラインの技法」、型崩れを防ぐための「上衿切り替え技法」など、業界の主流となる多数の技術を生み出してきた。

これらの技術は多くの縫製技術者に支持され、海外からも招へいを受けるなど、紳士服縫製業界のけん引役として活躍。世界大会紳士服コンクールにてイギリス洋服組合理事長賞受賞ほか、全日本紳士服コンクールなど受賞歴も多い。

同コンコールの審査委員など、多くの委員・要職を務めるほか、台湾・香港まで技術指導に足を運び、技術指導に30数年取り組む。東京マイスター。平成27年「黄綬褒章」受賞。



オーダーがあればパッチワークの背広も作ります



展示会でも自ら作ったスーツで

[新宿ものづくりマイスター平成20年度認定]

洋裁



さとう じゅんこ
佐藤 順子

見学可

体験可

Jフローラ

MAP34 新宿区富久町 34-6

TEL : 03-3357-7283

昭和34年生まれ。同63年より婦人服製造会社において縫製技術を学ぶ。平成14年に国家検定「婦人子供服製造1級」「婦人子供服パターン1級」、東京都「職業訓練指導員免許(洋裁)」を取得。

同16年「Jフローラ」を開業。オーダーメイドの婦人服や仕立て作業のほか、婦人服製作の教室を運営。なかでも着物から洋服へのリメイクを得意とする。

和服から洋服へのリメイクで難しいとされている柄合わせや着用時に映えるシルエットも、うまく出すことができる。

生地伸縮を想定した型紙の作成はもとより、高級生地の風合いが損なわれないように糸で印をする「きりびつけ」など、型紙・裁断・仕上げすべの工程における総合的な技術が評価されている。

平成15年全日本洋裁技能コンクール東京都知事賞、同21年経済産業省製造産業局長賞、同25年第27回技能グランプリで第2位など受賞歴多数。

日本洋装協会主催の技能検定講習会では、後進者の指導・育成にも積極的な貢献をしている。



布への印は丁寧な「きりびつけ」で



白無垢、色打掛などがリメイクされた作品

[新宿ものづくりマイスター平成28年度認定]

足袋製造



おおはし のぶひこ
大橋 信彦

見学可

(有) むさしや

MAP30 新宿区四谷本塩町 1-7 コート金井 101

TEL : 03-3351-7359



昭和 21 年生まれ。足袋屋「むさしや」の 3 代目。同 39 年から後継者として仕事を始め 55 年を超えた。東京でも数少なくなった眺え（オーダーメイド）の座敷足袋製造の技術者である。

座敷足袋は、正式な白足袋の他に、麻足袋、色・柄足袋、別珍足袋などさまざまな種類があり、素材に合わせ製作される。1つの足袋を作るために、平ミシン・つまミシン・廻しミシン・ジグザグミシン・こはぜ付けミシンなど、工房内にあるミシンを使うその手際は速く、美しく、正確である。

一方、極細の足や外反母趾など、現代特有の足型に合う足袋づくりのための研究を続け、履きやすく、しかも皺のできない仕上がりを心がける。

これまで数多くの製造補助員の技術指導を行ってきた。「足袋」と「和装」文化の継承を念じて講演活動を行うなど、歴史と文化の継承の一役を担っている。

[新宿ものづくりマイスター平成 23 年度認定]



指まわりも細い針目で丁寧に縫う



足袋づくりの原点ともなる「型」

革製品製造



あゆさわ つよし
鮎澤 剛

鮎藤革包堂

MAP24 新宿区筑土八幡町 5-12

TEL : 03-3267-0409



昭和 46 年生まれ。平成 3 年より革靴の製作を開始。同 10 年爬虫類専門のハンドバッグメーカーで修業し、その後独立。同 18 年オーダーメイドの鞆工房「鮎藤革包堂」を創業。一般的な牛革だけでなくイタリア・ドイツなどの特徴のある牛革、ワニ・ゾウ・ヘビ・サメ・オーストリッチなど、様々な素材を扱う。

デザイン、型紙起こし、裁断、縫い、縫い合わせた部分の処理から仕上げ、すべてを自ら行う。そのこだわりは多岐にわたり、ひとつひとつの工程も素材の特徴を考慮して選択する。

最も難しいと言われる技法にクロコダイルの継ぎ合わせ「ハギ」がある。その技術力の高さは、完成品の使いやすさにも表れ、多くの顧客に愛用されている。

その一方で、地域のイベントではレザークラフト教室を開くなど、一般の人々に革の良さを伝える活動に貢献している。東京マイスター。

[新宿ものづくりマイスター平成 24 年度認定]



オンリーワンのバッグが並ぶ店内



小物オーダーも受けている

婦人靴製造



ささげ きょう こ
捧 恭子

Belpasso (ベルパッソ)

MAP27 新宿区神楽坂 3-6 佐藤荘 1 階

TEL : 03-5228-6528



昭和 36 年生まれ。同 61 年金沢美術工芸大学大学院工芸科染色専攻修了。同 63 年エスペランサ靴学院を卒業。平成 2 年にはイタリア・ミラノの靴専門学校「ARS STURIA in Italia」で技術を習得。

帰国後に就いたテキスタイルメーカーでのデザイナー経験を活かし、デザイン性の高いパンプスを作る。平成 27 年からは男性用の靴も作っている。

オリジナルブランド「Belpasso (ベルパッソ)」はイタリア語の美しい・良い「ベル」、歩み・ステップ「パッソ」から創られた造語。心地よい一歩という意味が込められている。

靴の製作は顧客の歩行の癖を考慮することから始まる。身体に負担のかからない靴底・中敷をひとつひとつ丁寧に設計。形、素材（漆塗り等）への研究・開発にも余念がない。

現在は「国際ファッション専門職大学」にて、靴の歴史だけでなく素材やテキスタイルについて教鞭を執っている。東京マイスター。

[新宿ものづくりマイスター平成 24 年度認定]

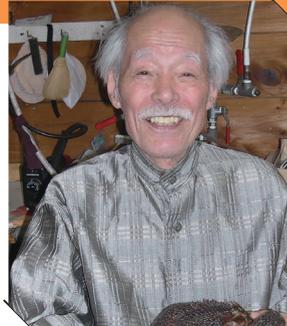


三重・VOLVOX Belpasso 靴展



パリ・ショールーム出展『MAN』

帽子製造



いちのせ ひろ お
故 市瀬 廣夫

大正 11 年生まれ。昭和 25 年、帝国ホテルアーケードに外国人向けの婦人帽子専門店を開業、注文による帽子作りを開始。

昭和 38 年フランス・パリに赴き、世界トップレベルの技術者・ジャンバルテ氏に師事。フランス語で“高級婦人帽子”を意味する「オートモード」を学び、スタイル・バランスを大切に使いやすく、形くずれしない、独自のモード・スタイルを確立した。

同 39 年からは皇室デザイナーとして美智子皇后陛下・紀宮様（当時）の帽子を製作し、同 45 年大阪万博にてせんい館「ウール・ショウ」にて帽子を担当。

バクラムと呼ばれる柳を刺し子にした素材での型作り、ベビーシルク、シャンタンなどの天然素材の風合いと特性を活かした作品には市瀬氏独自の技術が見られる。

昭和 48 年新宿区にアトリエアキコを新設。次世代を担う職人に技術を伝え、専門学校やカルチャースクールの講師も務め、積極的に技術者の育成に取り組んだ。

[新宿ものづくりマイスター平成 21 年度認定]



スタイル・バランスを大事にした帽子の数々

義肢・装具製造



ふじづか かつえい
故 藤塚 勝栄

(有) 藤塚製作所

MAP 3 新宿区上落合 2-21-15

TEL: 03-3362-0414

昭和 15 年生まれ。ケガの治療や障害を持つ人の手足に合わせ、義肢や装具を製作してきた。

義肢・装具は、手足の他、体幹にある脊椎を支えたりするための補装具を指す。その製作には、医師の診断や患者の体型、身体を動かす際の癖などの確にとらえ「採型」する部分がポイントと言われる。

患者から話を聞きとり、もともとあった身体の機能と形の復元をたいせつにした。

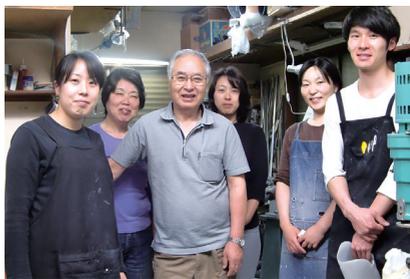
「採型」の後の石膏モデル作り、プラスチックや金属の微妙な調整、形成などの確な技術は顧客に多くの安心と満足を与えてきた。

指導資格である一級技能士(国家資格)の取得後は、専門学校でリハビリ科の非常勤講師を勤め、義肢装具士科の実習生を受け入れるなど、教育・指導にも全力を尽くした。

[新宿ものづくりマイスター平成 23 年度認定]



石膏モデルをつくる



優秀な技術者を多く育てた

技にふれる

新宿ミニ博物館へ行ってみよう!

区内の文化財や史跡、伝統産業を担う職人の仕事場などを「ミニ博物館」として展示公開中。

◆ 東京染ものがたり博物館 ◆ MAP C

東京染小紋や江戸更紗を中心に、染色の技法や作品を紹介。第 3 土曜日に限り、工房見学体験教室あり(要予約)。料金等詳細はお問合せください。

【開館日】月～金、第 3 土曜日
【開館時間】10:00～12:00 / 13:00～16:00
【入場料】無料
【所在地】新宿区西早稲田 3-6-14
【お問合せ先】03-3987-0701



◆ 染の里 二葉苑 ◆ MAP A

東京染小紋や江戸更紗など、手染めの技法や作品を見学できます。染色の体験や、本格的な教室も開催。料金等詳細はお問合せください。

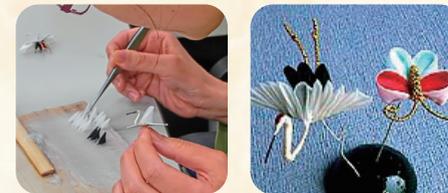
【開館日】火～土
【開館時間】11:00～17:00
【入場料】無料
【所在地】新宿区上落合 2-3-6
【お問合せ先】03-3368-8133



◆ つまみかんざし博物館 ◆ MAP B

「つまみかんざし」とは、薄い小さな絹布を、ピンセットを使ってつまんで作る日本の伝統工芸品。初心者を対象とした半日の体験教室も実施。料金等詳細はお問合せください。

【開館日】水・土
【開館時間】10:00～17:00
【入場料】無料
【所在地】新宿区高田馬場 4-23-28 ヒルズ ISHIDA401
【お問合せ先】03-3361-3083



お問合せ先 新宿歴史博物館



畳製造



みずの こういち
水野 功一

水野畳店

MAP29 新宿区四谷本塩町 1-5

TEL : 03-3341-1760



昭和 18 年生まれ。四谷本塩町（旧七軒町）で江戸時代元禄より約 325 年間営む水野畳店 10 代目。親方は 9 代目である父・水野勝太郎。同 40 年に東京都の「2 級畳技能士」免許、同 46 年には「畳科職業訓練指導員」資格を取得。

寺院の座敷の紋縁（もんべり）、四方紋縁畳台、四天紋拝敷などの細工仕事をこなすかわら、お座敷などの「一本縁・五分縁」も手がける。

一本縁は、畳の縁が二つ重ならないよう畳を組み合わせ、「粋」と「趣」を表現する、高級座敷などの技術である。

従来の畳の構造は、稲わらを強く圧縮し、縫いとめた畳床に畳表を縫い合わせたものだが、近年は断熱性・軽量化を目的にポリスチレンや建材を使用したものが多く、代々続いてきた技術の継承を難しくしている。

数年前からは、縫い加工で機械を導入するなど、工程を改善することで様々な場所で畳を使ってもらえるよう、研究を重ねている。

現在は、畳製造一筋 60 年の節目を迎え、11 代目と研鑽を積んでいる。

[新宿ものづくりマイスター平成 27 年度認定]



畳縁の縫い目は寸分のくらくなく美しい



手作業が必要な縁なし畳が高級品

畳製造



つねかわ なおき
常川 直喜

高岡屋常川畳店

MAP33 新宿区四谷 4-18-2

TEL : 03-3351-8611



見学可

体験可

昭和 33 年生まれ。新宿区四谷で約 150 年営んできた「高岡屋常川畳店」の 5 代目。代々引き継がれてきた畳の製造・修復に 40 年間従事する。

近年増えつつある硬い畳床には機械縫いも取り入れるが、畳の角を美しく整えたり、藁床のすき間やへこみの微調整には伝統的な手縫いを施す。

また、寺社仏閣の座敷の畳縁（たたみべり）には、家紋の入った「紋縁（もんべり）」を施す。紋がきちんと並んで見えるよう、紋縁の角は 45° で縫い合わせ、縫い目が目立たぬよう仕上げる。このような処理には経験が必要とされる。

それらの技術は、6 代目となるご子息へ伝授されつつある。

四谷四丁目商交會會長、四谷四丁目町會副會長を務め、四谷須賀神社では総代を務めるなど、地域の發展や安全に貢献する。東京都畳工業協同組合理事としても、組合の發展にも努めている。

[新宿ものづくりマイスター平成 30 年度認定]



手縫いでは「手当て」と長い針を使う



6 代目の泰平さん（右）と

桐箆筒製造



まつもと よしあき
松本 義明

見学可

(株) 箆筒の松本

MAP31 新宿区四谷 2-10-6

TEL : 03-3355-1151



昭和 25 年生まれ。大正元年、箆筒の神様と言われた松本朝之助が四谷に創業した「箆筒の松本」3代目。東京都の伝統工芸品に指定されている桐箆筒製造の優れた技術者であり、宮内庁へ納めた実績も持つ。

先代が考案した着色技術「やしゃ砥の粉仕上げ」を継承し、自社の社員だけでなく、日本各地の職人にも指導に赴く。こだわりの「やしゃ砥の粉」は京都山科地方から仕入れた岩石の粉で、溶かして箆筒の表面に均一に塗布する。塗ることでまっすぐに通った木目がはっきりと出て、しかも湿気調節に効果を発揮する。

さらに、職人の技が最も表れるといわれる「仕込み」(「引出し」の出し入れの調整)技術にも秀でている。

継承に力を入れる一方で、設計から作る完全オリジナルのオーダーメイド箆筒や蒔絵や染めなどの技法とコラボレーションした箆筒も得意としている。

[新宿ものづくりマイスター平成 22 年度認定]

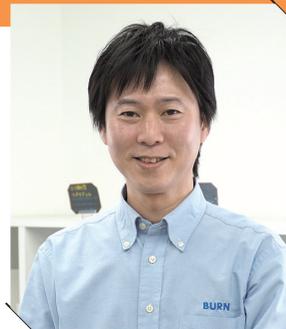


指物類は、宮内庁御用達の逸品



立体感のある美しい蒔絵が装飾された箆筒

内装木質・アルミ建材等補修



たじま やすのり
田島 靖教

(株) バーンリペア

MAP28 新宿区北山伏町 1-11 牛込食糧ビル 3 階

TEL : 03-5227-1390



昭和 49 年生まれ。ギター製作会社を経て、平成 13 年、「(株) バーンリペア」へ入社。住宅のメンテナンス・補修作業に従事し、4 年後には補修部門のリーダーとなる。平成 24 年からは補修方法の開発にもあたり後進の指導も務める。

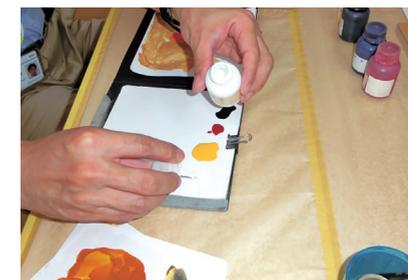
毎回、修繕を必要とする場所・使用状況・材質により、用いる材料や方法が異なる。1 つとして同じ条件の修復作業はない。最適なものを選択し、再発防止も視野に入れた修復技術が高く評価されている。

例えば、木製の内装材やフローリングの傷は「パテ」による成形と、「ラッカー」による木目再現が基本。ラッカーでの再現には 3 原色と黒・白を混ぜ合わせ、木目を描きながら仕上げる。その仕上がりの見分けはほとんどつかない。

上海万博での仕事など、国内外で活躍している。

「指導する際には、できるだけロジカルに、永く、大切に使い続ける文化を伝えていけたらと思っています」。広く海外にもリペア文化伝承への意志は強い。

[新宿ものづくりマイスター平成 26 年度認定]



5 色を混ぜたラッカーで丁寧に木目を描く



リペア前→パテ埋め→色形補正→完成

表具



なみき よしお
並木 良夫

※現在は引退されています。

昭和9年生まれ。同28年より「神田蛭雪堂（沢野経師店）」に就業し、表具（襖・掛け軸・屏風など）の製作を始める。同35年、区内に「柏葉堂（並木表具店）」を構え独立。同39年に国家検定の一級技能士資格、翌40年には職業訓練指導員資格を取得した。

掛け軸は、軸の内容や顧客の希望に合わせた生地・柄・色選びが技の見せ所だが、実は「裏打ち」で決まると言われる。

裏打ちの際は、裏面に蠟を塗り水晶の数珠でこすることで柔軟性を与える。吊るした際にまっすぐになるよう、見えない部分への工夫も行った。

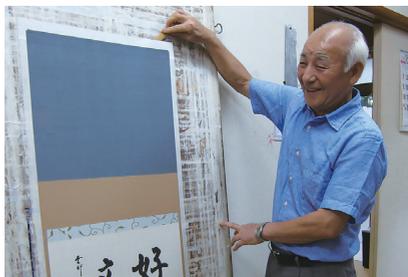
表具すべての工程を手作業で行うそのたゆみない努力が認められ、皇居三殿での障子張り作業も20年に及んだ。

過去に育てた十数名の職人には全国技能グランプリの最優秀賞受賞者も出るほど、後進の育成にも尽力した。

[新宿ものづくりマイスター平成25年度認定]



丸包丁は裂（こぎれ）や紙の裁断に



吊るしたとき垂直になるよう仕上げるのも技術のうち

金属原型彫刻



さかもと くに お
坂本 国雄

見学可

(株) SAKAMOTO

MAP19 新宿区東横町12

TEL: 03-3235-0226



昭和31年生まれ。金属原型彫刻師は、江戸飾り職（金属のかんざし飾りを鑿（たがね）で手彫りした職業）の技術を受け継ぐ。20歳の時、会社員の生活から一転、近所に住む職人・早川氏に師事したという異色の経歴を持つ。昭和58年サカモト彫刻を設立、現在に至る。

国内外の一流ブランドのみならず、個人、団体、官公庁から多くの依頼を受ける。平成22年、世界柔道選手権大会の金・銀・銅の各メダルの原型を製作。

金属を彫るには、鑿のほか、打ち込むための鑿（のみ／ハンマー）、セラミック砥石など様々な道具を駆使する。「道具も作れてこそ一流」と呼ばれ、工房ではたくさんの鑿が、その出番を待つ。完成した作品は徽章屋に納品され、メダル、社章バックル、キーホルダーなどの商品に仕上げられる。

40年前のメダルなども粘土でレリーフを作成し、巧みに彫刻を施し再現される。手彫りならではの緻密な技術は、現在ご子息に引き継がれている。東京マイスター。

[新宿ものづくりマイスター平成21年度認定]



真鍮に金メッキのオリジナルコイン



研ぎすまされた道具たち

印章彫刻



おかもと なおや
岡本 尚也

岡本印房 岡本尚山

MAP32 新宿区住吉町 1-10

TEL : 03-3353-2265



昭和 40 年生まれ。同 60 年より印章彫刻業に従事。松崎秀硯氏、小川瑞雲氏のもとで修業。一人前になるのに確実に 10 年は要すると言われる世界で 4 年という異例の速さで彫刻技術を習得。

平成元年に印鑑製造販売の「岡本印房」として独立。木や石に文字を刻む篆刻においては日展審査員の内藤富卿氏に師事。同 4 年、全国印章技術大競技会で優勝。史上最年少で「労働大臣賞」を受賞。同 24 年には全日本印業組合連合会技術競技会篆刻部門にて「文部科学大臣賞」を受賞。

既存の印章文字の形状にとらわれず、中国最古の甲骨文字にまでさかのぼって文字の究極の美しさを追求し、由緒正しい篆書文字に独自の動きが加えられた作風を確立した。

従来から印章界では扱われてこなかった自然素材など、新印材の試作も積極的で、それらの特徴を活かした耐久性や装飾性のある高品質な印章製作を行う。

東京都職業能力開発協会の事業にも協力。ものづくりの視点からも後進の指導・育成に尽力している。

[新宿ものづくりマイスター平成 27 年度認定]



個性に富んだ唯一無二の手彫り印鑑



文字の原形にまで遡り、格調高い印鑑文字を作成

和竿製造



たけうち まさはる
竹内 正治

※現在は引退されています。

昭和 16 年生まれ。東京の伝統工芸品にも指定されている和竿製作の優れた技術者。竹の選定から自分で行い、布袋竹・矢竹・丸竹・淡竹などを竹の性質を使って継ぎ合せて 1 本の和竿を完成させる。

材料の選定の後は竹の曲がりを直し、その上から糸を巻き、さらに漆をかける、全部で 28 もの工程となる。

なかでも漆塗りの工程は、細かなものも含め 30 以上あるが、丁寧かつ的確に仕上げる。完成した竿の透明感のあるフォルムは、美しい作品のようで既製品を圧倒する。

もちろん、使ってこそその竿。主に海釣り用の竿を、さまざまな魚に合わせ製作し、使いやすさも追求してきた。

[新宿ものづくりマイスター平成 23 年度認定]



剣先きりや丸棒やすりなど欠かせない道具

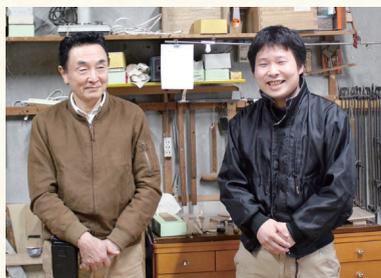


温度・湿度を適正に保つ「室(むろ)」も手づくり

はやさか けんじ
早坂 健次さん

桐箆笥の魅力を伝え続けたい

新宿通りに店を構える「箆笥の松本」は大正元年創業の老舗。早坂さんは、桐箆笥の名産地・春日部で家具職人として7年働いた後、新宿へ。ものづくりマイスターの松本さん (P.60) からは素材や作りの特徴、産地ごとの違いなど様々な知識を学び、今や修復技術の師匠・小林さんから太鼓判を押されるほどに腕を上げた。「桐箆笥は思いのこもった家具であることが多くて、納品時にご家族全員で出迎えてくださったりします。お届けする喜びは何度味わっても良いものです」と頼もしい笑顔を向ける。



みたけ あやめ
三岳 彩芽さん

繊細に、丁寧に。

華やかな和の文化が薫る神楽坂に店を構える梅花亭。4代目・井上さん (P.68) が生み出す、美しく美味しい上生菓子が評判だ。「自分が思いつかないようなお菓子を次から次に考案します」と、師匠の創作力に敬意を表するのは、職人歴4年の三岳さん。対する師匠からも「店舗販売も製造も、その場を仕切れる頼れる存在」と互いに全幅の信頼を寄せ合う。「丁寧に、繊細な上生菓子を作っているうちに、日々の生活まで細やかになった気がします」。三岳さんは、師の技を受け継ぐべく、さらなる高みをめざす。



◆◇◆ 技をつなげる ◆◇◆

新宿のものづくりを担う次世代たちにインタビュー

PART
2



もろおか けんじ
諸岡 賢二さん

325年の伝統を受け継いで

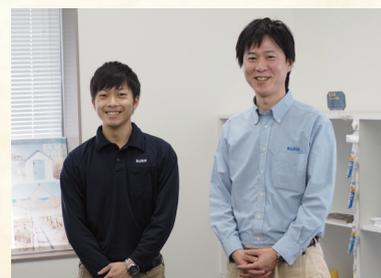
江戸は元禄。五代将軍・徳川綱吉の時代に創業し、当代で10代目、325年の歴史を持つ水野畳店。イ草の香りが満ちた作業場で、親方の水野さん (P.58) と諸岡さんは日々、畳作りに勤しむ。元々は義理の父と婿という間柄だったが、約10年前に後継ぎになることを決意。機械化されても変わらず残る多くの手仕事を親方から学んで来た。生活様式の変化に伴い、需要が低下する現実に直面しながらも、「もっと畳のことを知ってもらいたい」という想いと「畳文化を絶やさない」という覚悟を胸に、今日も縫い針に力を込める。



いとう のぞみ
伊藤 望さん

「技術」をより「ロジカル」に

建物の内装や外装、家具についた傷を修復 (リペア) するという専門性の高い職人集団。そんなリペアマンたちの手にかかれば、木材がえぐれた深い傷も、修復後はさっぱり見分けがつかなくなる。平成29年入社 of 伊藤さんは師匠の田島さん (P.61) に入社直後から指導を受け、現在はともにリペアマニュアルの作成にも力を注ぐ間柄。センスや勘だけに頼らず、論理的に教えるための教科書だ。自らのリペア技術を積み上げつつ、伝承するために「いかに分かりやすく伝えるか」という課題とも真摯に向き合う日々である。



和生菓子製造



いのう え たけし
井上 豪

見学可 体験可

(資) 梅花亭

MAP25 新宿区神楽坂 6-15

TEL: 03-5228-0727



昭和 46 年生まれ。美術大学を卒業後、平成 6 年より家業である「神楽坂梅花亭」に就業。

季節の生菓子や、茶席用の上生菓子、贈答用の焼き菓子などの和菓子を製造。同 25 年には国家検定の「一級菓子製造技能」免許を取得。上生菓子（練りきり）でも特に難しいとされる「はさみ菊」の技術で高い評価を得る。

同 26 年には全国和菓子協会主催の「選・和菓子職」において「優秀和菓子職」として認定された。「はさみ菊」の技術をアレンジし、小さく洗練された大きさに仕上げるなど、オリジナルを含めたレパートリーは約 200 種。

生地に練り込む色彩にはベニバナやクチナシなどを使い、健康面への配慮も怠らない。また、自らも舌の感覚を常に保っておけるよう、日頃の食生活では薄味を心がけている。

茶道をたしなみ、「宗豪」の茶名を持つ。外務省の日本ブランド発信事業として、イギリスで講演を行うなど、国内外で和 문화の伝承に努めている。東京マイスター。

[新宿ものづくりマイスター平成 26 年度認定]



手書きの完成図



鮮やかな色彩が映える上生菓子と「はさみ菊」

和生菓子製造



あいだ しげる
相田 茂

(有) 五十鈴

MAP26 新宿区神楽坂 5-34

TEL: 03-3269-0081



昭和 26 年生まれ。大学卒業後世田谷区の和菓子店に入社。生菓子製造と餡煉りを学ぶ。24 歳で実家の「五十鈴」に戻り、2 代目として現在に至る。

和生菓子は餡を基本にすべて手作りし、団子も自分で米から挽いた上新粉を使うなど、材料へのこだわりも強い。店舗に隣接する工場では複数の職人と一緒に作業することで指導育成にあたる。

豆大福、団子のような餅菓子など伝統的な菓子をつくりつつ、オリジナル商品にも力を入れる。代表的な菓子に 2 種の餡を自家製パイ生地で包み焼きあげた「神楽坂饅頭」や、ふんわりとした皮でつぶ餡を挟んだ「神楽坂どら焼き」などがある。

これらのオリジナル商品は先代から伝わる「甘露甘納豆」や昭和 59 年の第 20 回全国菓子大博覧会で受賞を果たした「くりやま」と並ぶ人気商品だ。

地元・神楽坂通り商店会では役員を務め、「神楽坂まつり」の実行委員長、神楽坂五丁目自治会の町会長を歴任。地域貢献に努める。

[新宿ものづくりマイスター平成 30 年度認定]



毎朝、団子、豆大福、焼き菓子の順で作る



くるみ餡と小倉餡の 2 種がある「神楽坂饅頭」

和食調理



ふじい ただし
藤井 正

※現在は退職されています。

昭和35年生まれ。18才で調理の道に入り、日本料理の技法を古都・京都で培う。「生間（いかま）流式包丁（まな板の食材に手を触れずに包丁を使ってめでたい形に盛りつける技のひとつ）」で知られる米良隆氏に10余年師事。

老舗割烹や都内ホテルなどで修業を重ね、平成21年には「ハイアットリージェンシー東京」の和食料理長に就任。

最も得意とする料理は「すり流し」や「蕪蒸し」。野菜や魚などをすりつぶして裏ごしし、出汁を加えながら加熱して作るすり流しは天下一品。

伝統的な和食調理はもとより旬の野菜を使って意匠をこらした「野菜寿司」はオリジナルの人気レシピ。一方でカレー味、磯味、青紫蘇、柚子の香りを入れた「香り醤油」も監修。メニューには全国各地の郷土料理を取り入れ、和食の伝統継承にも尽力した。

調理師専門学校の教育実習生受入れや講師なども積極的に行うほか、CODEX HACCP（＝食品の安全性を確保するシステム）認証維持や食品自治指導員として、食品衛生指導にも貢献した。

[新宿ものづくりマイスター平成26年度認定]



野菜は切り方にも工夫して食べやすく



しいたけやショウガで色も美しく

技の名匠 認定者一覧

平成20年度	1 富田 篤	東京染小紋	平成23年度	19 福室 隆一	無地染	平成27年度	38 水野 功一	畳製造		
	2 西澤 幸雄	東京手描友禅		20 真淵 貴昭	東京手描友禅		39 宇佐美 隆三	浸染		
	3 青木 勉	製本		21 大橋 信彦	足袋製造		40 岡本 尚也	印章彫刻		
	4 兼平 欣治	シール印刷		22 竹内 正治	和竿製造		41 佐々木 精一	活版印刷		
	5 石田 毅司	つまみかんざし製造		23 故藤塚 勝栄	義肢・器具製造		平成28年度	42 中村 博幸	引染	
	6 松田 義明	紳士服製造		24 工藤 博	手描友禅			43 佐藤 順子	洋裁	
平成21年度	7 飯島 武文	東京手描友禅	平成24年度	25 砂川 裕孝	東京染小紋	平成29年度	44 高橋 俊隆	琴・三味線修理		
	8 石崎 直治	日本刺繍		26 鮎澤 剛	革製品製造		45 遠藤 興喜	手描友禅(金彩)		
	9 高岡 昌生	活版印刷		27 捧 恭子	婦人靴製造		平成30年度	46 平林 隼人	手描染	
	10 故市瀬 廣夫	帽子製造		28 萩森 弥郁夫	管楽器修理(オーボエ・バスーン)			47 相田 茂	和生菓子製造	
	11 坂本 国雄	金属原型彫刻		平成25年度	29 大澤 学		東京手描友禅	令和元年度	48 常川 直喜	畳製造
	12 伊藤 史安	管楽器修理(フルート)			30 北川 幹雄		紋章上絵・染色補正		49 金田 朝政	東京染小紋
13 高橋 一郎	管楽器修理(管楽器全般)	31 多湖 朋	管楽器修理(管楽器全般)		50 中村 隆敏	引染				
14 熊崎 和人	東京手描友禅	32 並木 良夫	表具		51 井上 正	製本				
15 松田 光二	染色補正	33 渡邊 博之	製本		※氏名の前の番号は認定番号です。					
平成22年度	16 松本 義明	桐単筒製造	平成26年度		34 藤井 正	和食調理				
	17 石森 信二	管楽器製造		35 井上 豪	和生菓子製造					
	18 山本 隆志	弦楽器製造		36 吉澤 敏	湯のし					
				37 田島 靖教	内装木質・アルミ建材等補修					

※逝去・引退・退職された方の紹介文は認定時の情報です。

技の名匠

令和2年3月発行
新宿区文化観光産業部 産業振興課
〒160-0023
新宿区西新宿 6-8-2 BIZ 新宿4 階
TEL: 03-3344-0701
FAX: 03-3344-0221

印刷物作成番号 2019-49-2803

この冊子は、技の名匠が製本しました。





Shinjuku Wazano Meisho